

NPO 法人 DGC 基礎研究所 (DGCbase) のご案内

まちの科学屋さん ～ 研究者による「よろず相談所」～

あらゆる問題が複雑化した時代

今日私たちが直面している多くの問題は、様々な要因が複雑に絡み合ったものです。環境問題はその最たる例で、不良な箇所を部分的に修復すればすべてが解決するような単純な問題ではなく、あらゆる因果関係を考慮して対処しなければなりません。しかし一方で、現在の学問体系は高度に細分化、専門化しており、このような複雑な問題に一分野だけで対応するのはもはや不可能と言っても言い過ぎではないでしょう。

様々な専門分野の研究者が集まり 複雑な問題に対処

そこで、社会の発展や環境の保全、科学技術の振興、さらには子どもの健全育成、より良いまちづくりの推進のために様々な専門分野の国内外の研究者が集まり、科学の普及啓発や科学的な問題解決についての活動を行う場として、NPO 法人 DGC 基礎研究所 (愛称: DGCbase) を

2002 年 6 月に設立いたしました。

様々な専門分野の研究者が集まり、それぞれの立場なりの意見や知識を出し合うことで、先に述べたような「一分野だけでは解決が困難な問題」にも柔軟に対応できるというのが私たちの考えです。多様性の高い集団を形成しておくことで可能性が無限に広がり、複雑な問題にも対処できるものと期待しています。

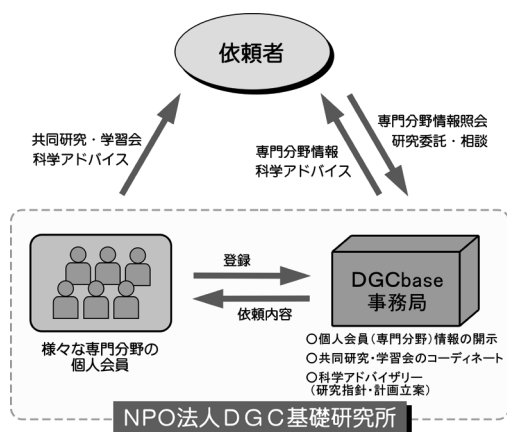
“DGC”とは・・・

「複雑性議論集団 “DGC” (Discussion Group on Complexity)」とは、1996 年に「現実世界の複雑性を真面目に科学として捉えよう」という呼びかけに応じて集まった、様々な複雑性関連分野を専門にする研究者の会です。この有志が DGCbase を設立いたしました。

◆ 役員 (理事・監事)

米林 甲陽 (京都府立大学名誉教授・元石川県立大学教授)
邑瀬 章文 (事務局長・研究コーディネーター)
内山 知二 (大阪府環境農林水産総合研究所主任研究員)
森川 千春 (石川県農林総合研究センター主幹)
三中 信宏 (農業環境技術研究所上席研究員・東京大学大学院教授)

DGCbase のシステム図



◇ 事務局 — inquiry@dgcbase.jp

事務局は一般の個人や企業、他の研究者等からの研究や相談、講演会等の依頼を受け付け、その内容を会員専用の掲示板や電子メールにて会員の方々に通知するほか、内容によってはそれに対応できる研究者を依頼者に直接紹介します。また、事務局へのお問い合わせには研究コーディネーター (博士) が対応しますので、依頼者が専門分野に明るくない場合でも安心です。

◇ 一般の方々から見たメリット — 「研究者集団」への窓口

一般の個人や団体、企業の立場から見れば、DGCbase は「研究者集団」への窓口となります。まちのかかりつけの医者へ診察に行き、総合病院の専門医を紹介してもらうのと同じような感覚で、科学の相談ができます。また、会員になれば会員専用の掲示板やメーリングリストを通じて他の会員へ自ら呼びかけることもできます。

◇ 研究者から見たメリット — 「店員のいる店」を共同で構える

研究者の方々にとっては社会に対する窓口、つまり営業部としての役割を DGCbase に期待でき、社会貢献を謳いつつ、「新しい研究テーマの開拓」や「異分野の共同研究者探し」もできる、いわば「店員のいる店」を共同で構えることとなります。また、自身の学識や研究成果を社会へ広く還元するための「場」としても活用できます。

◆ 研究者会員の所属一覧 (登録順、2013 年 10 月現在)

三重大学大学院生物資源学研究科・京都大学大学院工学研究科・(元)早稲田大学理工学総合研究センター・中央農業総合研究センター・農業環境技術研究所・(元)石川県立大学生物資源環境学部・大阪府環境農林水産総合研究所・石川県農林総合研究センター・東京工業大学大学院生命理工学研究科・(元)東京大学東洋文化研究所・医薬品医療機器総合機構・東京大学大学院新領域創成科学研究科・理化学研究所植物科学研究センター

DGCbase が支援した活動の一部 (現在進行中も含む)

◆ 緑化樹剪定枝葉の有効利用の推進 <http://matteru.com/>

公園の緑化樹や街路樹などの剪定枝葉は毎年多量に発生する廃棄物ですが、適切に加工すれば野菜や花卉の栽培などの生産活動へ積極的に利用できる未利用資源です。DGCbase は、枝葉を枝と葉に分別してから加工する新しい資源化技術「枝葉分離工法」の開発に関して、民間企業、大学、公的研究機関、国土交通省との共同研究を実施し、実用化と有用技術の特許権利化を支援して来ました。その結果、二酸化炭素の排出削減とコスト削減を同時に実現するシステムが完成しました。この新技術は 2006 年 10 月に国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所（国道 43 号）にて導入されました。なお、このご案内の和紙は国道 43 号のクスノキ剪定枝パルプを 30%使用しています。

◆ チェンバロのレクチャー・コンサート <http://dgcbase.jp/cembalo/>

17～18 世紀の音楽史をひもとくと、そこにはチェンバロという名の楽器が存在していたことがわかります。当時はこの楽器で音楽が作られ、宮廷や教会などで演奏されていました。一方、大正 14 年築のいけだピアまるセンター（旧池田実業銀行本店・国指定登録有形文化財）は西洋建築ならではの音の響きや雰囲気具备了貴重な歴史的建造物です。このレクチャー・コンサートでは、当時の音を再現しながら音楽史や演奏法についてわかりやすく解説して、チェンバロの魅力をお伝えしました。2010 年 2 月 20 日開催。（大阪府文化振興基金「大阪楽座事業」採択事業）

◆ 生活者のための食の安心協議会 <http://anshin-shoku.jp/>

現在の「食の安全」で最も重要な問題は、「食べ物としての安全性」ではなく「食の安全保障」すなわち「食糧の安定供給」の問題です。来るべき食糧危機に備えて、持続的な農業を実践する産地を応援して行くことが大切です。しかしながら、BSE や食品表示偽装事件を契機に「食べ物としての安全性」の問題ばかりが目され、消費者の間には漠然とした「不安」が蔓延しています。これらの「不安」を取り除き、消費者が安心して「やる気のある生産者」を応援できるような仕組み作りが必要です。「生活者のための食の安心協議会」は、産学官民が横断的に協力を図りながら、「食」にまつわる諸問題を中立的な場で議論し、トレーサビリティ・システムの普及支援やリスク・コミュニケーションなどに関する事業を行うために発足しました。2004 年 10 月に DGCbase より独立して NPO 法人化しました。

◆ 内モンゴルアルカリ土壌の改良と乾式脱硫プロセスの普及

～ 中国の酸性雨と砂漠化の問題を同時に解決するシステムの開発 ～

中国では、石炭の燃焼により発生する硫酸化合物が酸性雨の主な原因となっています。一方、土壌のアルカリ化による農地の荒廃も深刻化しています。そこで、脱硫石膏（石炭火力発電所の脱硫プロセスにおける副産物）をアルカリ土壌の改良に利用するシステムを実用化し、中国の酸性雨問題と耕地のアルカリ土壌化問題の同時解決を図るため、日中の研究者が共同で研究を行っています。本事業は 2004 年末より 3 年間、「トヨタ環境活動助成プログラム 2004」による助成を受け、土壌改良の技術を地元に根付かせるための現地調査や緑化活動団体への支援などを行いました。

◆ 高等独文解釈のウェブサイト <http://dgcbase.jp/deutsche/>

上級者向け独文読解のためのサイト「高等独文解釈」を開設しました。これは大阪大学名誉教授（故人）が独文解釈用に収集した文章とその和訳の遺稿を試行的にウェブ公開するものです。この遺稿は当初は参考書として出版されるためにまとめられましたが、一般の学生にはやや難解であることから出版が見送られていました。それから約 20 年を経てインターネットが普及した現在では、本として出版しなくても、必要とする人へ発信することができます。学生のみならず一般の愛好家の方々にも広く読まれることを期待して、ウェブサイトにて無料公開しました。2010 年 1 月に発行した 83 題に続いて、2012 年 1 月には新たに 41 題を追加掲載しました。

DGCbase 入会のおすすめ

様々な専門分野の研究者（会員）と出会う機会が得られます。

個人・法人の方はお目当ての専門家探しに、研究者の方は研究テーマの開拓や社会還元などにご活用ください。活動への支援としてのご入会も大歓迎いたします。

年会費は 正会員 5,000 円、賛助・法人会員（1 口）50,000 円 です。

◆ お問い合わせは・・・

NPO 法人 DGC 基礎研究所 <http://dgcbase.jp/>

〒561-0802 大阪府豊中市曾根東町 1 丁目 5 番 13 号
TEL/FAX: 06-6857-2682 E-mail: inquiry@dgcbase.jp